

パートナーとのトラブルを乗り越えるために



## ● トラブルは起きるもの。

### どう捉えるか？

### どう乗り越えるか？

目指している方向性は同じはず。しかし、避けて通れないのが協働相手とのトラブルです。トラブルが起こってしまった事実で困惑し、トラブルの本質を上手く捉えられていないことも多いはず。ここは冷静に受け止めて次へのステップへ！！



#### 1 トラブルは起きるんです

もともと異なる組織同士の協働にはトラブルがつきものです。まずは、トラブルは起きるものとして受け入れることが重要です。

#### 2 トラブルの捉え方を柔軟に

同じ現象でも、立ち位置によってはプラスに捉えることも、マイナスに捉えることもできるでしょう。今起きていること、本当にトラブルなのか？少し立ち止まり向き合ってみることも必要ですね。

#### 3 トラブルは相手や自分を理解するチャンス

お付き合い1カ月：M夫「君に似合う赤の口紅をプレゼントするよ」、A子「嬉しい！ありがとう」。  
数年後：M夫「君に似合う赤の口紅をプレゼントするよ」、A子「実は赤の口紅って使いにくくていらないの！」M夫「エッ！！もっと早く言ってくれよ。でも君の事が分かって良かったよ」

#### 4 いざとなったらトラブルは誰かに解決してもらおう

「じっくり話をしたら分かりあえるはず！」、「誠意を持って説明をすれば乗り越えられる！」、ことばかりではありません。トラブルの当事者同士が向き合うと、より深みにはまっていきがちです。時には、第三者的存在に委ねて後は寝て待つことも必要です。

#### 5 どうしたって駄目なときは無理しないであきらめる

頑張ってもどうしても駄目なときはあります。一歩引いてみることで視野が広がり、ひょんなところから次の一手が見つかることもあります。

#### チェックリスト！

- 事前に起こり得るトラブルの想定はしていますか
- 今起きていること。それって本当にトラブルですか
- トラブルの本質を捉えていますか
- トラブルのことを相談できる第三者的存在はいますか
- 「あきらめる」を「発展的解消」と捉えられますか

#### コラム

通年事業での出来事。「最初100名いたスタッフが20名に減ってしまっただ。」想定外のことに協働相手が「80名も減るなんて責任問題だ！」と。その後、両者が話し合って分析を進めると、「事業に協力的なスタッフを20名も確保できて良かった」と納得し乗り越えることが出来たそうです。